

## ガイディング・プリンシプルス：新たに誕生した伝統のワークブックをみんなで使いこなす

**用意するもの：** 『ガイディング・プリンシプルス』に関する覚え書き用紙（3部）、「伝統5」に関する配布資料、書籍の『ガイディング・プリンシプルス』、基本原則集、進行役の手引き、「伝統」と「概念」に関する要約集。

### はじめに

10分

（スライド 1） NAの伝統に関する新しい書籍『ガイディング・プリンシプルス：ザ・スピリット・オブ・アウア・トラディションズ』は、2016年度のワールド サービス カンファレンスで圧倒的多数によって承認された。こうして新たな文献が誕生したことによって、メンバーたちがそれぞれの人生や回復に、グループの活動に、そしてあらゆる段階でのNAのサービスにと、NAの原理を実践する方法を学んでいけば、ナルコティクス アノニマス全体で「12の伝統」がうまく機能するようになるだろう。この「伝統」に関するワークショップは、メンバーたちに新しい文献を紹介しつつ、そこに提案されているようなディスカッションに参加してもらうことを目的としている

### （スライド 2） 本の内容について

この『ガイディング・プリンシプルス』というワークブックにはさまざまな項目や実例があり、共同でも個別にでも取り組めるようになっている（「伝統5」に関する配布資料を参照）。

この『ガイディング・プリンシプルス』というワークブックにはさまざまな項目や実例があり、共同でも個別にでも取り組めるようになっている（「伝統5」に関する配布資料を参照）。

#### 各章の構成

- 始まりと終わりに、それぞれの伝統に関する短い文章がある。
- 下準備の課題が2つある。
  - 「ワード・バイ・ワード[一語一語を忠実にたどる]」という課題は、それぞれの伝統を構成する言葉や言い回しに焦点を当てるようになっている。
  - 「スピリチュアルな原理」という課題は、それぞれの伝統にかかわりのある原理について具体的に書くことやディスカッションすることによって探求するようになっている。
- 本文は、私たちが回復の道で伝統を活かしていくことを3項目に分けて論じている。
  - 「メンバーとして」という項目には、個人の回復にそれぞれの伝統を活かすことを論じる文があり、それに続いて書くことやディスカッションに適した質問が設けられている。
  - 「グループとして」という項目には、グループがそれぞれの伝統を理解して活かそうとするうえで必読のものになるだろう。ここには、グループの棚卸に役立つ質問が設けられている。
  - 「サービスの場で」という項目では、それぞれの伝統をサービス機関の視点から検討する。ここに設けられた質問は、サービスに関するワークショップで活発な議論をうながすことを目的としている。

(スライド 3) 少し時間をとって、ワークブックの「スピリチュアルな原理」という課題を使いながら「伝統5」に盛り込まれた原理のことを考えてみよう。出席者のなかから、だれかに「伝統5」と伝統5に関する配布資料にある以下の文章を読んでもらう。

伝統5： 各グループの第一の目的はただ一つ、まだ苦しんでいるアディクトにメッセージを運ぶことである。

各伝統には、さまざまなスピリチュアルな原理が盛り込まれている。以下の原理と価値を認めるものに関するリストは、私たちが「伝統5」の活用について考えるさいに役立つだろう。ひとつひとつ、書くことや、スポンサーや仲間たちとディスカッションすることによって検討してみるとよい。また、これ以外にも自分に関わりがあると思えるものがあれば、リストに加えておくとよいだろう。

誠実さ、責任、一体性、アノニミティ（無名にとどまる）、献身、共感、サービス、目的、広い心、降伏、忠実、継続、用心、情熱、安心、希望

(例) 継続

継続はスピリチュアルな原理のひとつであり、これによって私たちはすべきことをやり続けていける。それは、「歩みをとめないで!」という決まり文句から始まる。定期的にミーティングに通うことによって私たちはクリーンにとどまることができるし、それがまた希望のメッセージを運ぶことにもなる。私たちは歩みをとめない。そうすればうまくいくからだ。グループはメンバーで決まるので、グループが自らの目的に忠実であるかどうかはメンバー次第である。継続して姿を見せ、正直にわかちあい、敬意をもって仲間と接していれば、つねに私たちの第一の目的は達成しやすくなる。継続して伝えるメッセージには、説得力がある。メンバーの行動とメッセージが明確で持続的なものであれば、グループは必ずうまくいく。

(スライド 4) 原理のリストからひとつを取りあげて、その原理がホームグループのサービスにどう活かせるかについて、会場をひとつわたりして意見を言ってもらおう。

## 小人数のグループによるディスカッション

30分

『ガイディング・プリンシプルズ』を使いこなす実習のために、会場を3つのグループに分け、グループごとに覚え書き用紙にある議題についてディスカッションをしてもらう。議題は、伝統1、2、3のいずれかの「サービスの場で」という項目から抜粋されたものである。（あらかじめ、出席者の席に伝統1、2、3のいずれかに関する覚え書き用紙を配布しておく、グループ分けがしやすいだろう。） (スライド

5) このようなディスカッションはこの場かぎりにせず、サービスの会議やNAのイベントに組み込んだり、回復に関するミーティングの前後に行ったりしていただきたいと、出席者にしっかり伝えておく。

グループごとに進行役と記録係を選んでもらい、ディスカッションにあたって基本原則集と進行役の手引きを再読してもらう。そして、グループによるディスカッションの覚え書き用紙は回収することになっているため、はっきり読める字体で記入するようにと、全員にお願いする。

それぞれのグループで、覚え書き用紙にある「伝統」と伝統に関する抜粋を読みあげるメンバーを指名し、話し合いを始めてもらう。（覚え書き用紙には、『ガイディング・プリンシプルズ』にある「サービスの場で」という項目から最初の段落が抜粋されている）。まずは議題について、メンバーがそれぞれ順番に自分の経験とアイデアを手短かに話していく。進行役は、メンバーに対して自分の考えを明確に、あるいは具

体的に話すように求めてもよいが、全員が話し終えないうちにクロス・トークや討論や議論が始まるのを許してはいけない。

**伝統 1：議題：**私たちの NA は、心をひとつにして協力しあっているか？ どうすれば、団結しようという気持ちを固めたり強めたりすることができるだろうか？

**伝統 2：議題：**グループの良心がしっかりと働く過程とは、どのようなものだろうか？ サービス機関の意思決定を見守る場合には、どんなことに注意すればいいか？

**伝統 3：議題：**ミーティングからいなくなってしまったのは、どういう人だろうか？ 外部の問題はどのように、そしてなぜ、アディクトが私たちの地域の NA で回復するチャンスに影響を及ぼすのか？

## ディスカッションのフィードバック

30 分

それぞれのグループで議論がいちばん集中したことを、時間の許すかぎり発表してもらおう。

出席者による意見を報告書にまとめることができるように、各自の覚え書き用紙は会場に置いていくように再度お願いする。

**(スライド 6)** 出席者には、この先それぞれにワークショップを開くことがあれば、その際に書き留めたメモを写メールにして [wb@na.org](mailto:wb@na.org) に送信していただきたいと、よくお願いしておく。

このほかにも、『ガイディング・プリンシプルス』に関するワークショップの資料は [www.na.org/IDT](http://www.na.org/IDT) に掲載されている。